



イノベーションで先へ行く!走れ!未来へ
ON THE RUN!

エラストマーで新事業の領域へ。
そこは時代の少し先にあります。

●医療機器・ヘルスケア機器 ●電子資材 ●新ソリューション

2019年3月期第2四半期 決算説明会

2018年11月21日

バンドー化学株式会社



I. 会社概要

II. 2019年3月期第2四半期 決算概要

III. 2019年3月期 業績予想

IV. 中長期経営計画

“Breakthroughs for the future”2ndステージ

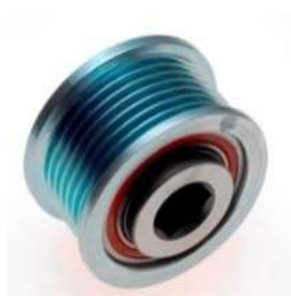
V. 参考資料

I . 会社概要

会社基本情報

社名	バンドー化学株式会社（証券コード：5195）
本社所在地	兵庫県神戸市中央区港島南町4-6-6
代表者	代表取締役社長 吉井 満隆
設立	1906年4月（明治39年4月）
資本金	10,951百万円（2018年9月30日現在）

自動車部品事業



●自動車用補機駆動ベルト

●オートテンショナ

産業資材事業



●産業機械用駆動ベルト

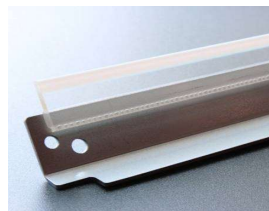


●農機用駆動ベルト



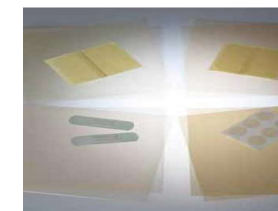
●コンベヤベルト

高機能エラストマー製品事業



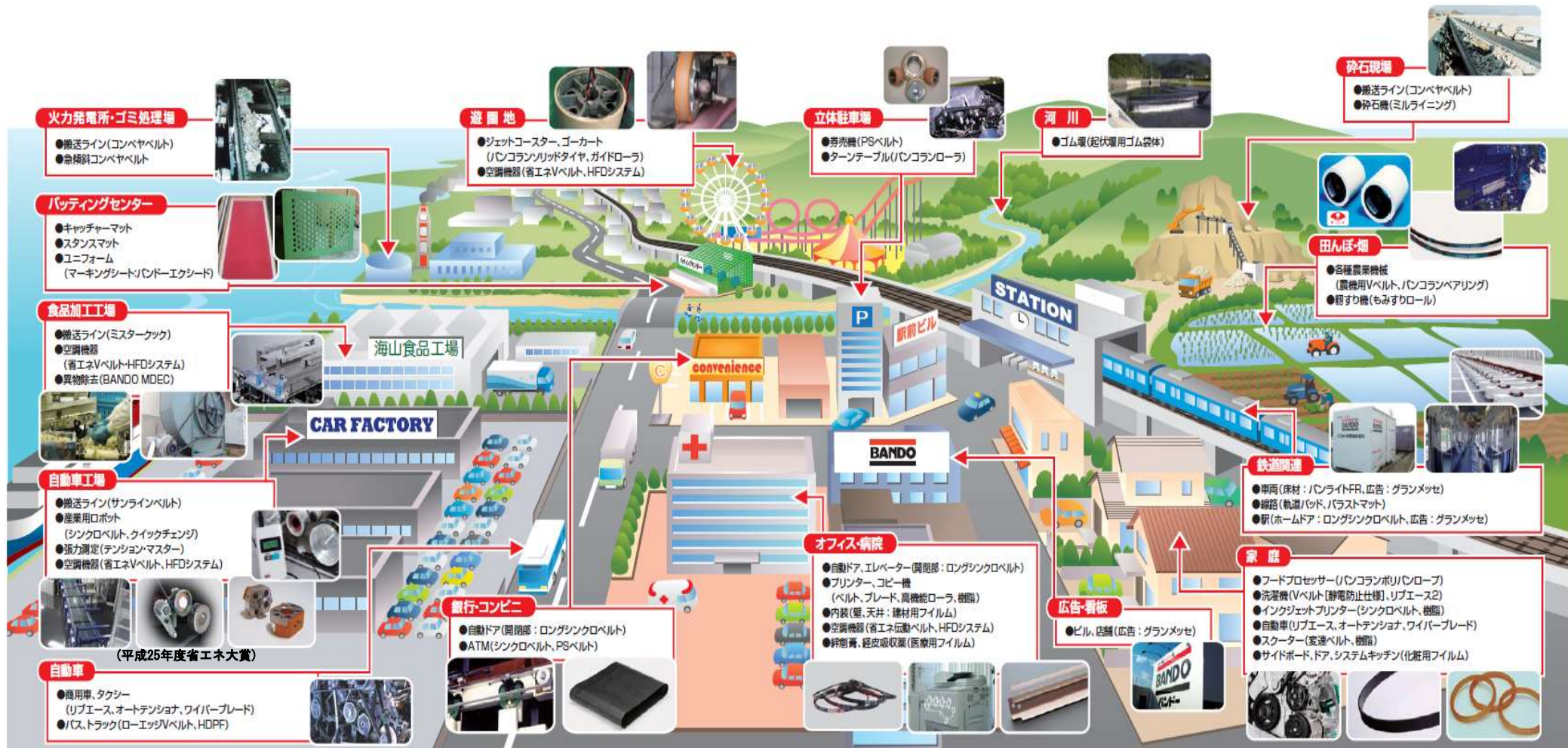
●精密機能部品製品

（左：クリーニングブレード 右：高機能ローラ）



●機能フィルム製品

暮らしのさまざまなシーンで活躍するバンドーの製品



Ⅱ． 2019年3月期第2四半期 決算概要

2019年3月期第2四半期 決算ハイライト



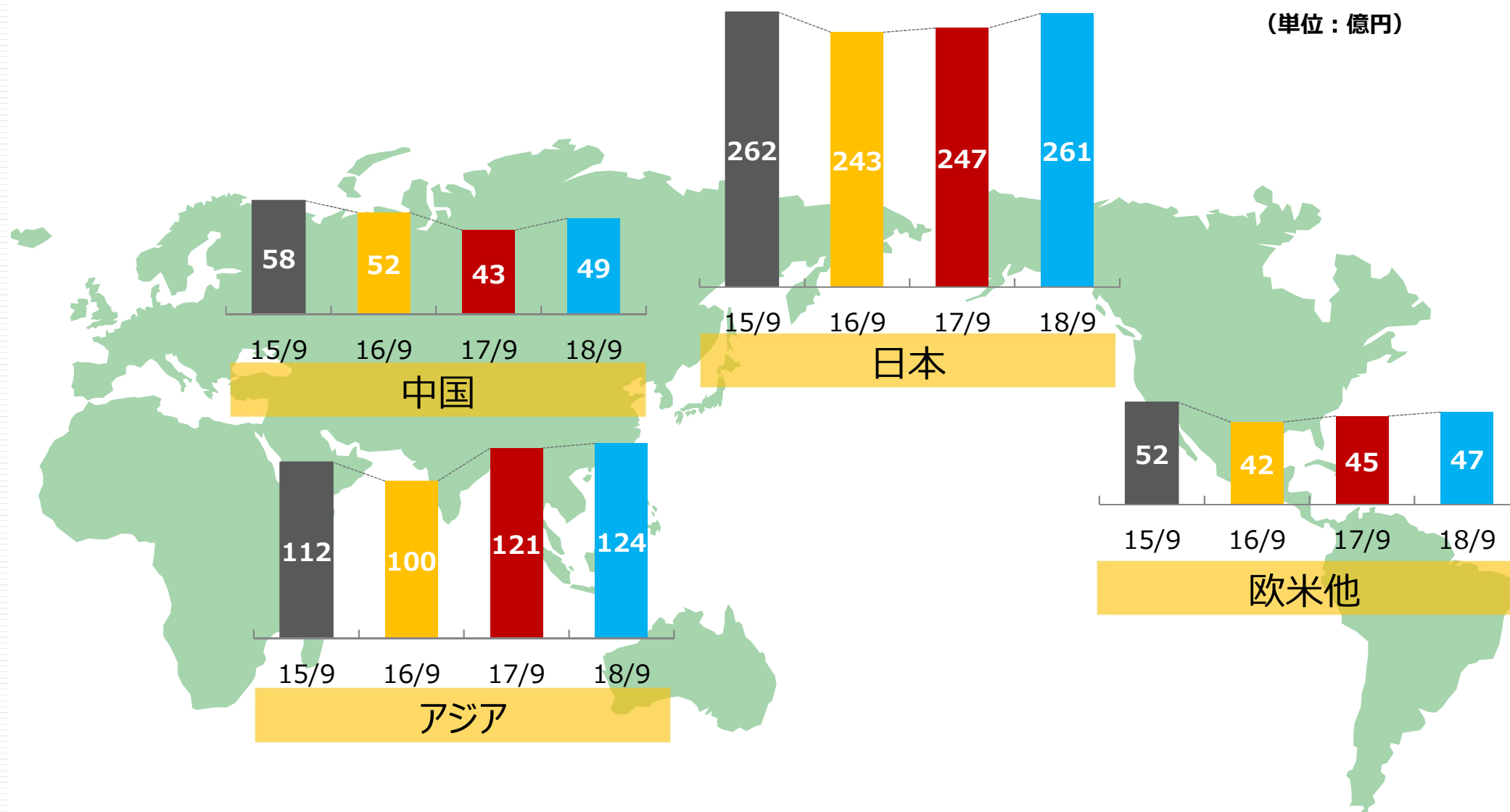
(百万円)

	2017/9	2018/9		2019/3	
	実績	実績	前期比	業績予想値	達成率 (対業績予想値)
売上高	45,792	48,201	+2,408	94,000	51.3%
営業利益	3,085	3,808	+722	6,500	58.6%
経常利益	3,387	4,546	+1,159	7,000	65.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,597	3,352	+754	5,000	67.0%
営業利益率	6.7%	7.9%	+1.2%	6.9%	—

- 売上高は、国内および海外ともに伸長し、前年同期比で2,408百万円の増収となった。
- 利益は、売上増に伴って営業利益が増加(+722百万円)し、営業外収益も持分法による投資利益や為替差益が好転したことから、経常利益は1,159百万円の増益となった。

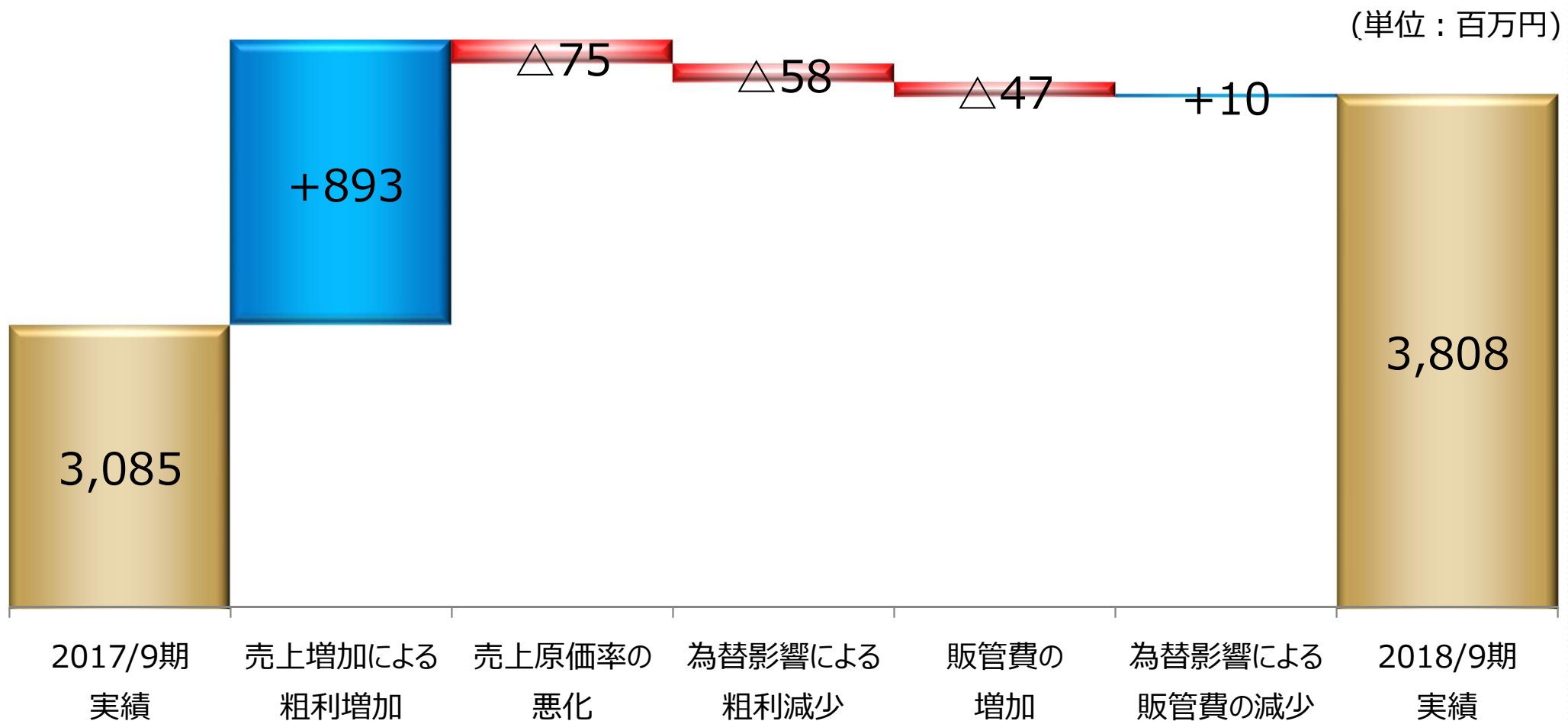
2019年3月期第2四半期 所在地別売上高

(単位：億円)



(注)所在地別売上高はセグメント間取引消去後。

2019年3月期第2四半期 連結営業利益 増減分析 **BANDO**



2019年3月期第2四半期 セグメントの状況



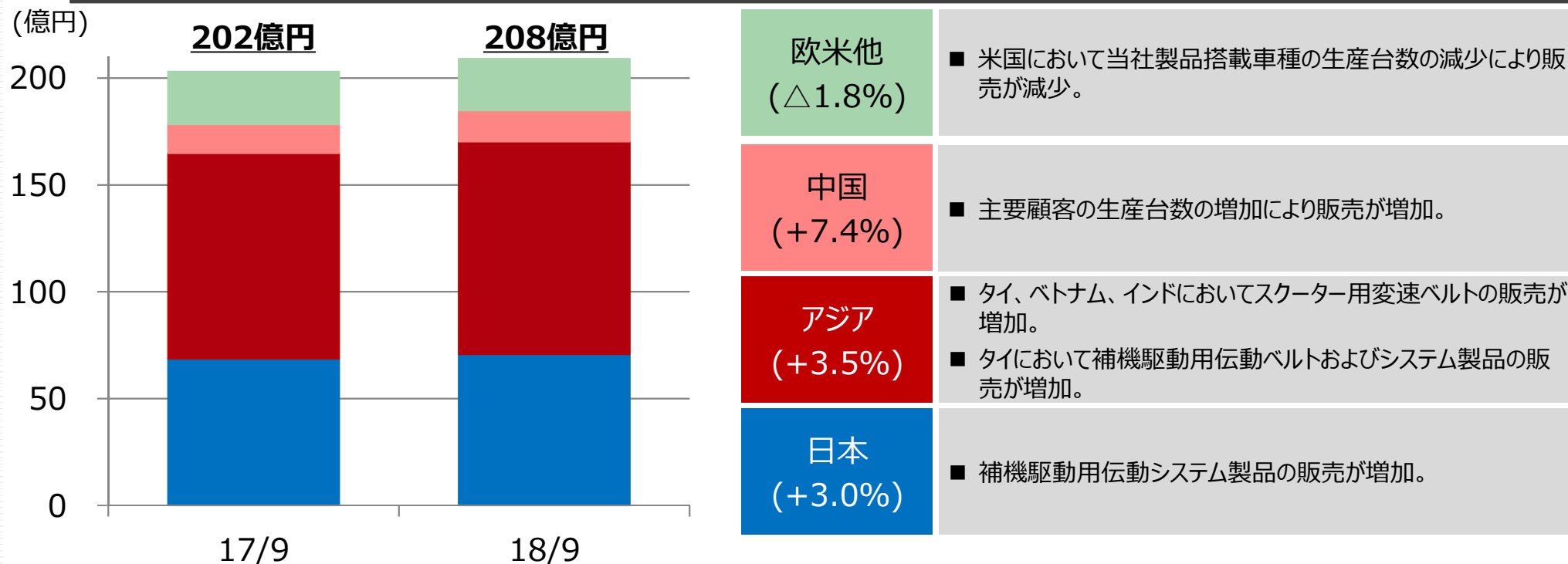
(百万円)

	2017/9 実績	2018/9		
		実績	増減額	増減割合
売 上 高	45,792	48,201	+2,408	+5.3%
自 動 車 部 品 事 業	20,338	20,919	+580	+2.9%
産 業 資 材 事 業	16,541	18,002	+1,460	+8.8%
高機能エラストマー製品事業	7,963	7,828	△134	△1.7%
そ の 他	1,261	1,873	+612	+48.6%
セグメント間消去	△312	△422	△110	—
営 業 利 益	3,085	3,808	+722	+23.4%
自 動 車 部 品 事 業	1,458	1,672	+213	+14.7%
産 業 資 材 事 業	1,095	1,039	△56	△5.2%
高機能エラストマー製品事業	151	443	+292	+192.9%
そ の 他	128	458	+330	+257.5%
セグメント間消去等	251	194	△57	△22.7%

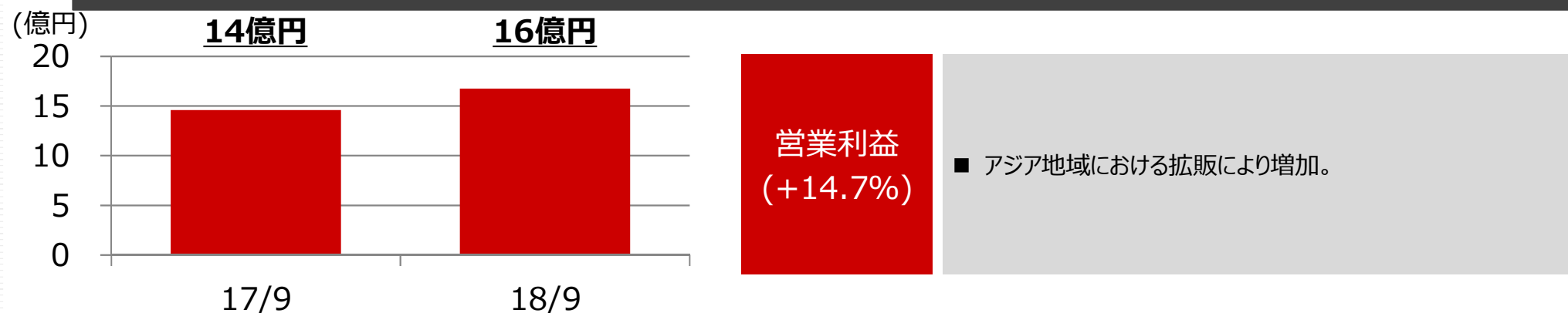
自動車部品事業 概要



所在地別売上高



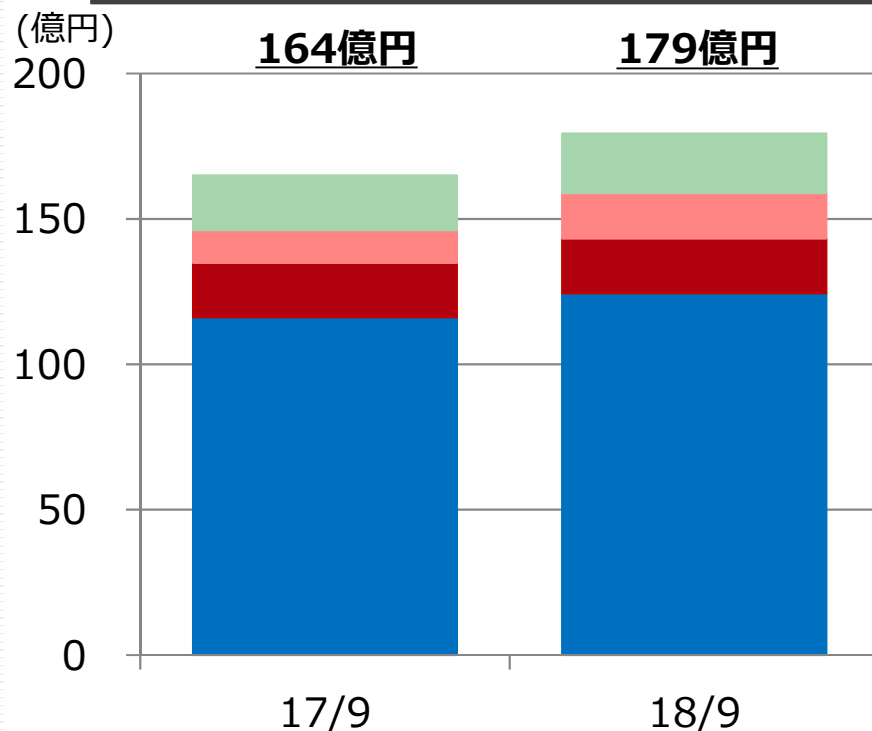
営業利益



産業資材事業 概要



所在地別売上高



欧米他
(+8.6%)

- 米国においては、民間設備投資需要の増加により、産業機械用伝動ベルトの販売が増加。

中国
(+38.8%)

- 農業機械用伝動ベルトなど販売が増加。

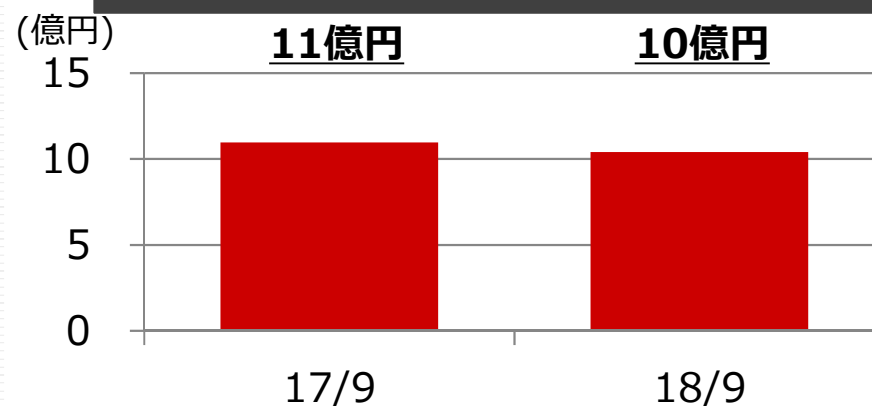
アジア
(+0.9%)

- 農業機械用伝動ベルトなど販売が増加。

日本
(+7.1%)

- 民間設備投資需要の増加により、産業機械用伝動ベルトの販売が増加。
- 大型案件の増加によりコンベヤベルトの販売が増加。

営業利益

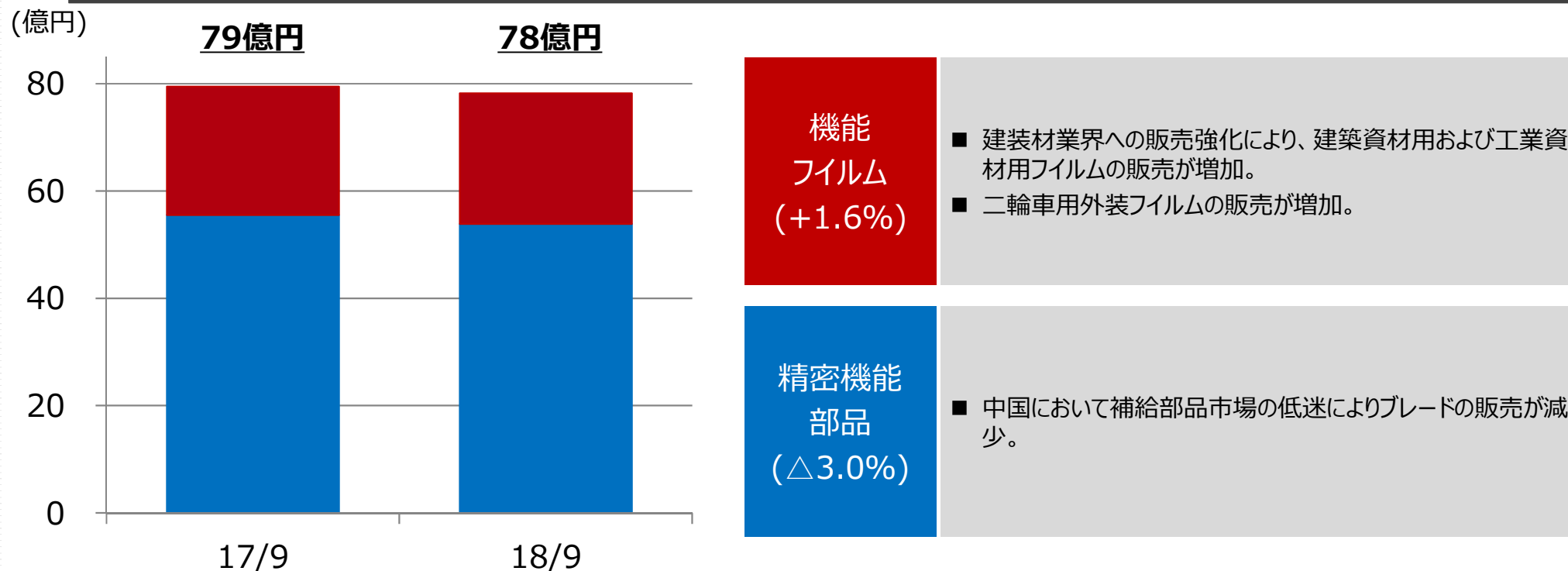


営業利益
(△5.2%)

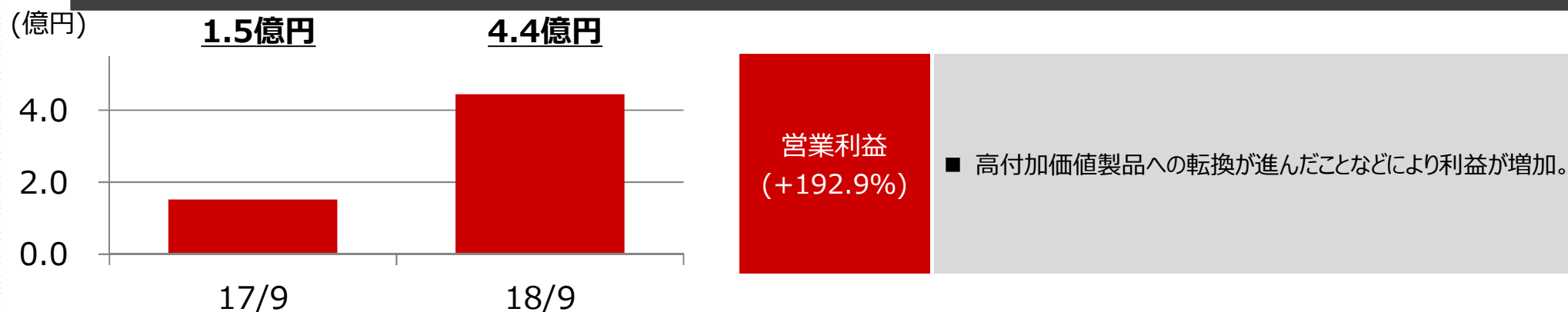
- 取引先への不具合対応により原価が増加した影響もあり減少。

高機能エラストマー製品事業 概要

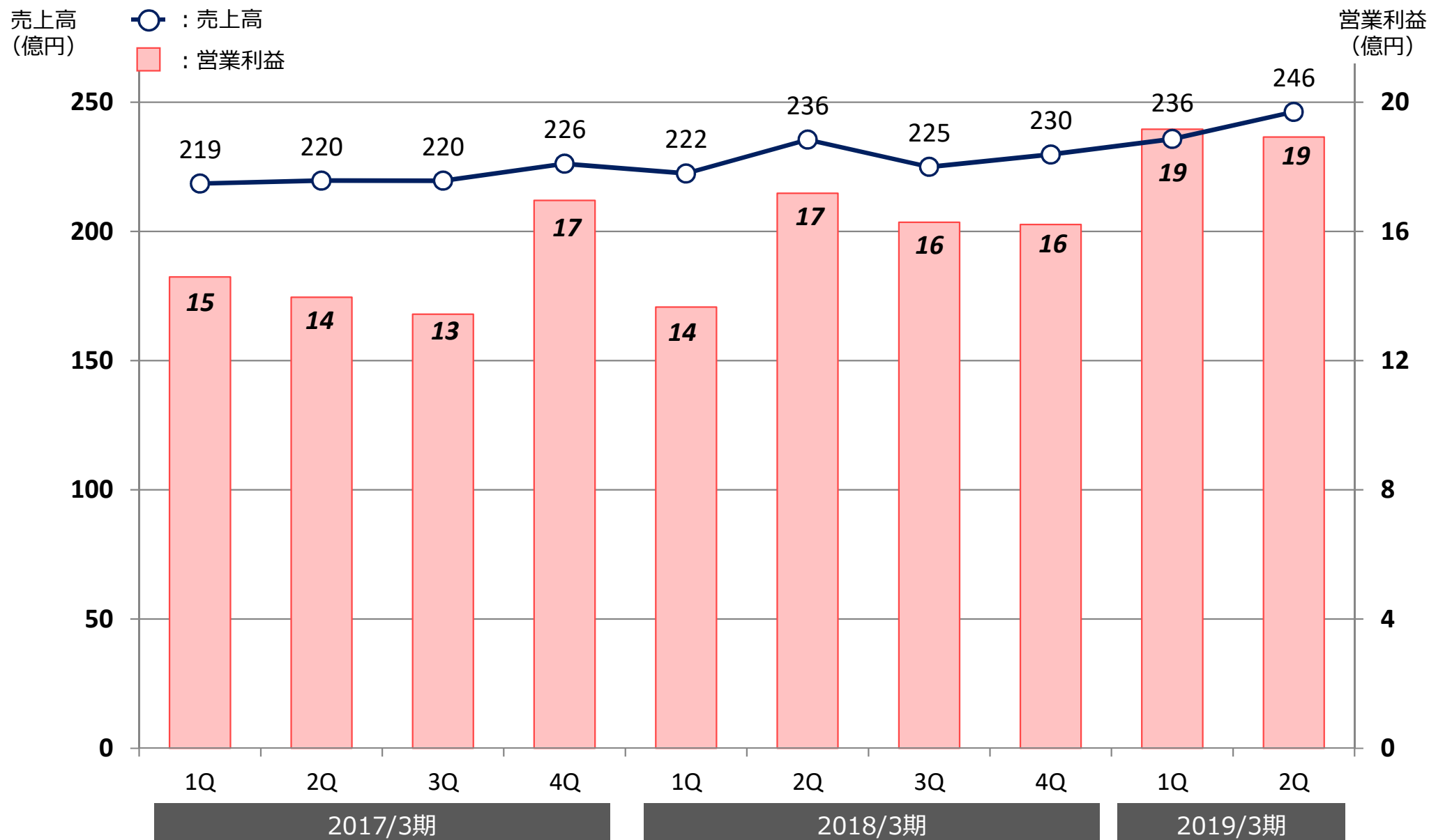
事業別売上高



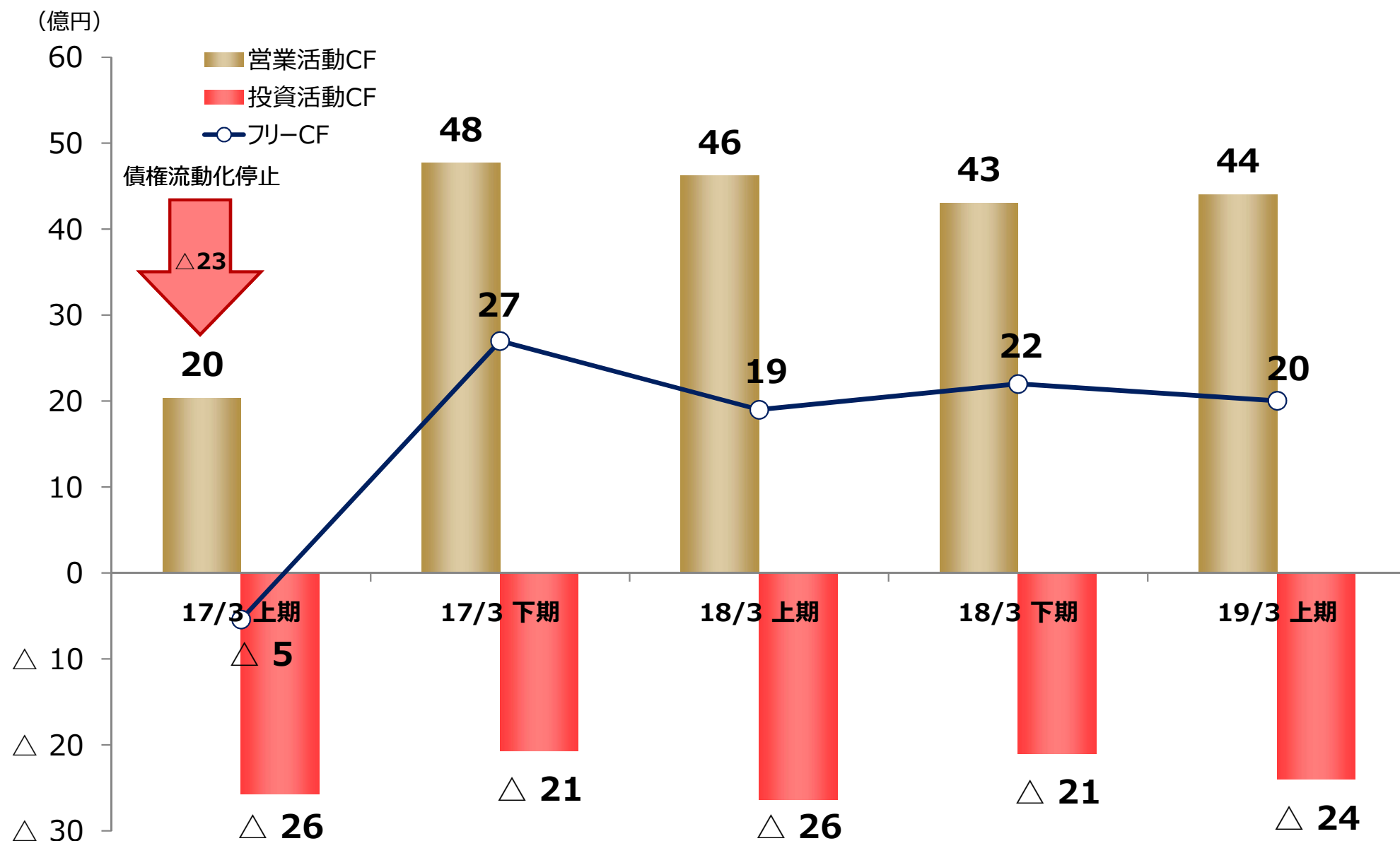
営業利益



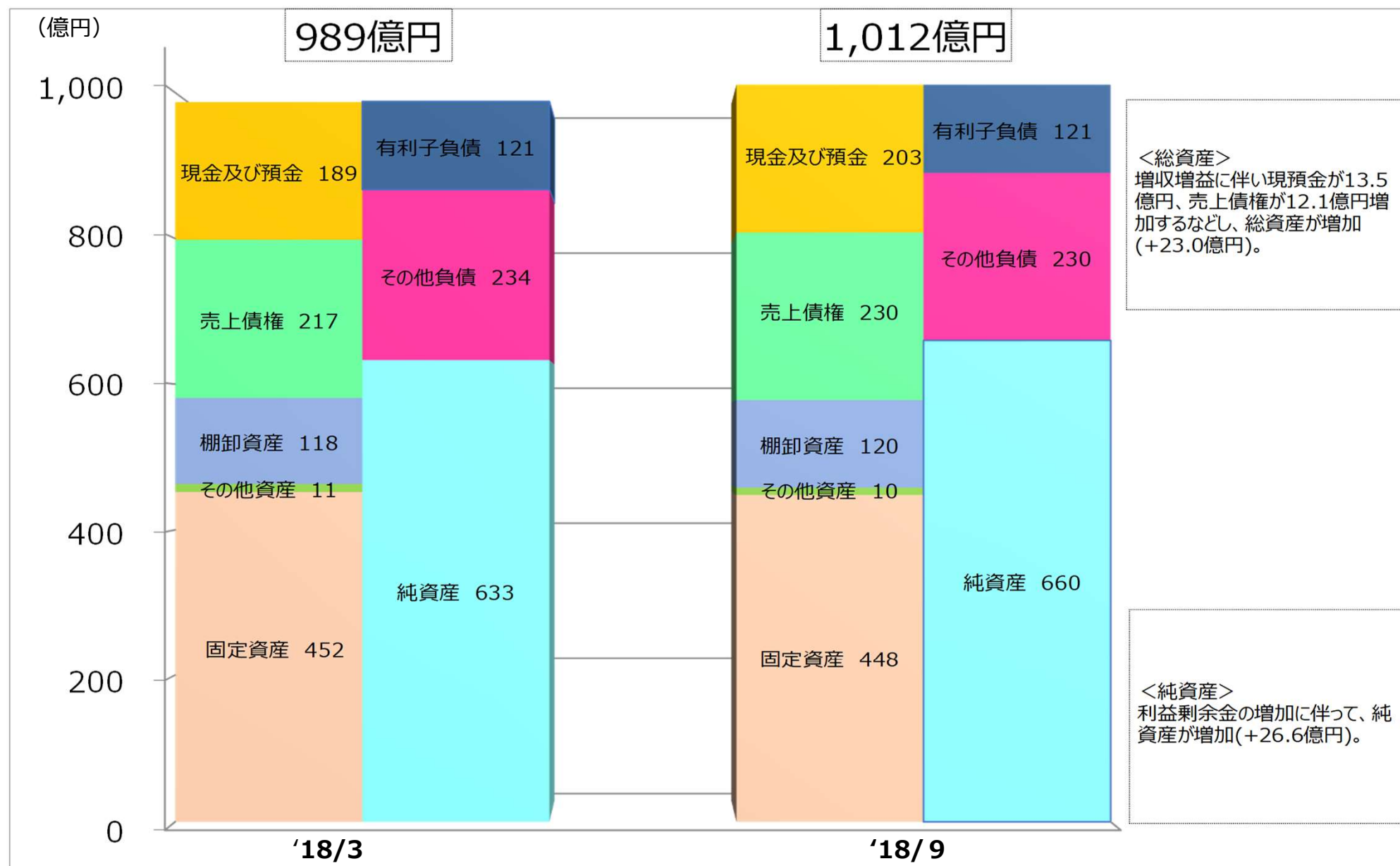
四半期推移 (売上高/営業利益)



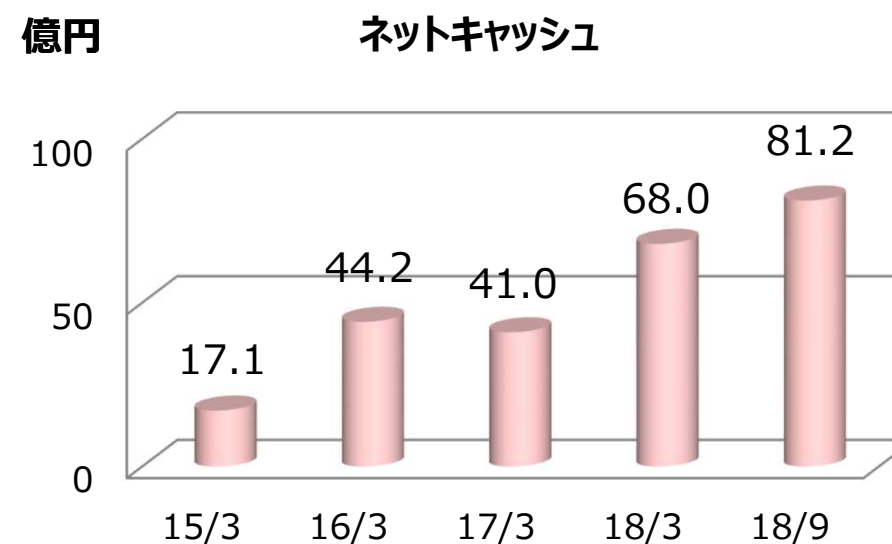
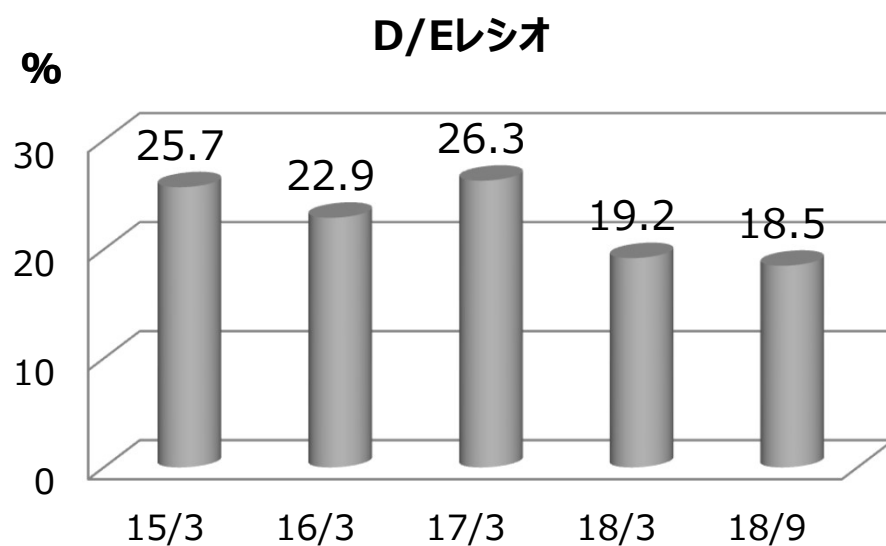
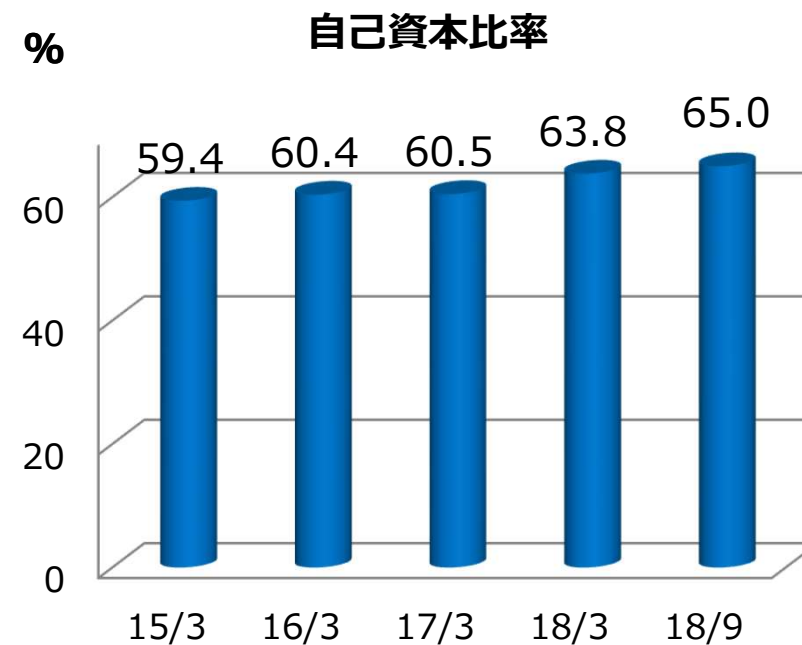
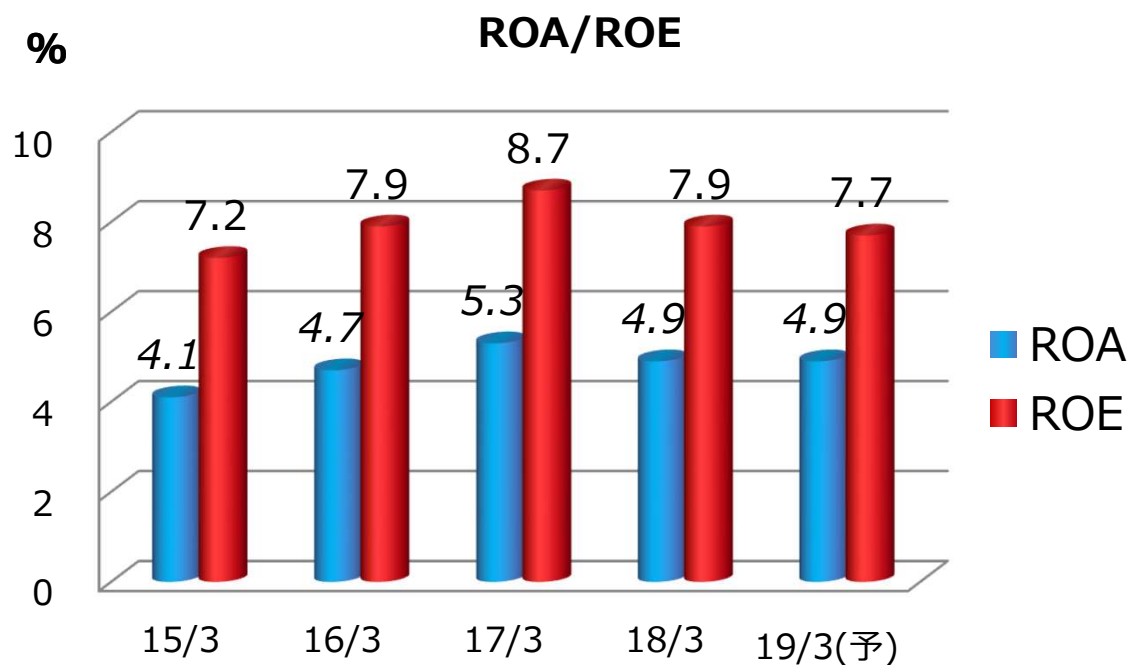
キャッシュフローの推移



連結貸借対照表



財務指標



主なトピックス

2018年

4月 ・バンドー神戸青少年科学館のネーミングライツ契約を更新

- ・個人と組織の働き方改革を推進「在宅勤務制度」を導入

6月 ・「2018国際食品工業展(FOOMA JAPAN2018)」に出展

- ・「第22回機械要素技術展(M-Tech)」に出展

7月 ・「人とするまのテクノロジー展2018名古屋」に出展

- ・バンドー神戸青少年科学館主催 夏の特別展
「世界に誇る日本のイノベーション」に出展

8月 ・「CSR報告書2018」を発行

9月 ・「アニュアルレポート2018(英語版)」を発行

- ・プライベート展示会「バンドーテクノフェア2018」を開催



神戸市からネーミングライツを取得している
「バンドー神戸青少年科学館」



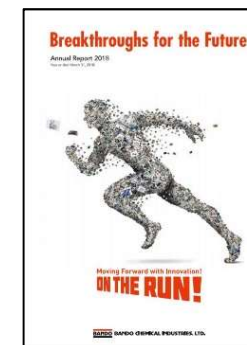
国際食品工業展に出品
PIM適合軽搬送用ベルト



機械要素技術展に出品
高負荷対応歯付ベルト「Ceptor®-X」



人とするまのテクノロジー展に出品
高熱伝導放熱シート「HEATEX®」



Ⅲ. 2019年3月期 業績予想

2019年3月期 業績予想



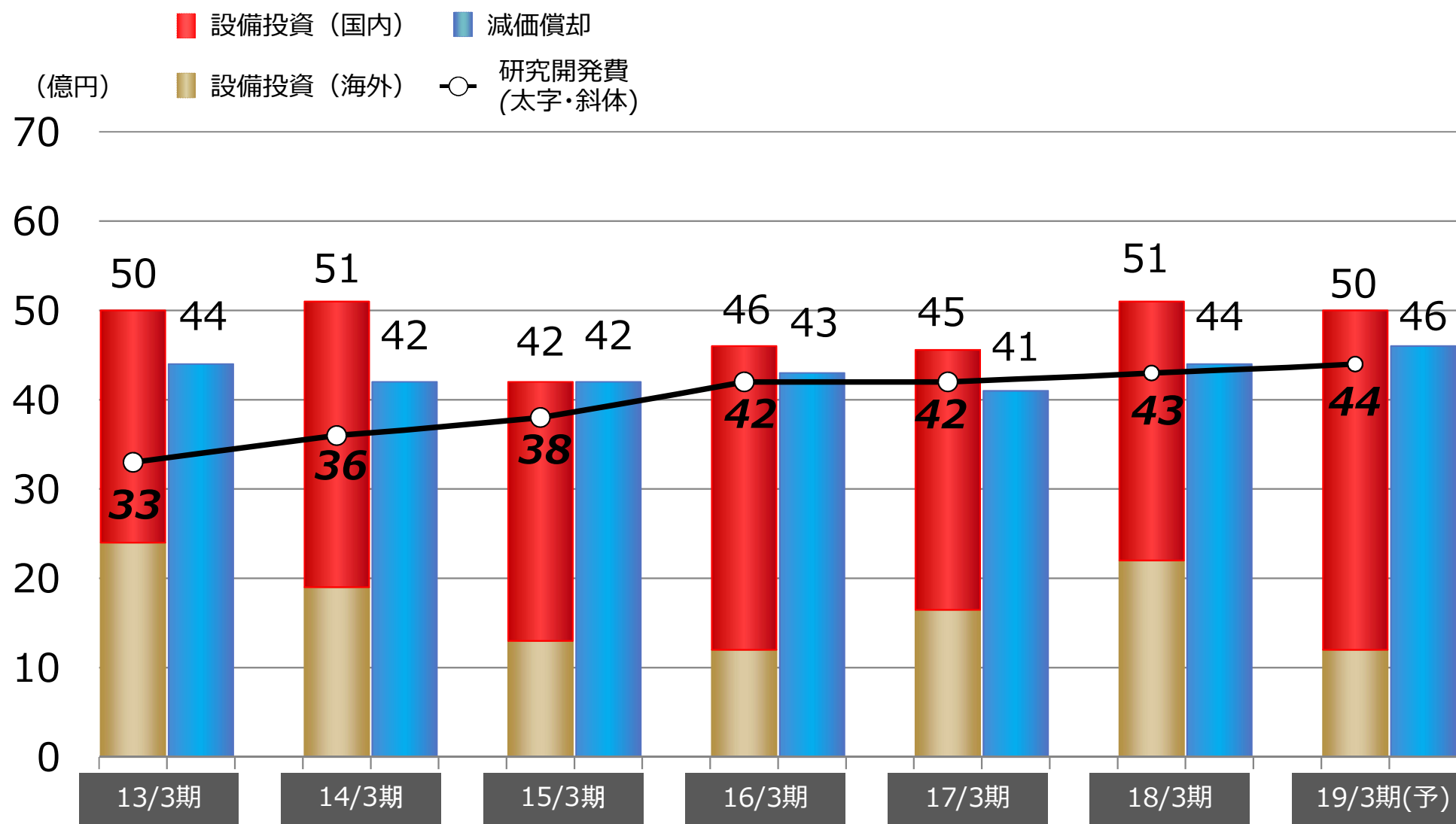
(百万円、%)

	2017/3	2018/3		2019/3 予想	
	実績	実績		前年同期比	
売上高	88,387	91,263	94,000	+2,736	+3.0%
営業利益	5,896	6,336	6,500	+163	+2.6%
経常利益	6,571	6,598	7,000	+401	+6.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,951	4,795	5,000	+204	+4.3%

為替レート	USD	108.69円	110.66円	105円		
	THB	3.10円	3.36円	3.4円		
	人民元	16.09円	16.77円	17円		

■ 期初公表値(2018年5月11日)から変更はありません。

設備投資額と減価償却費、研究開発費の推移

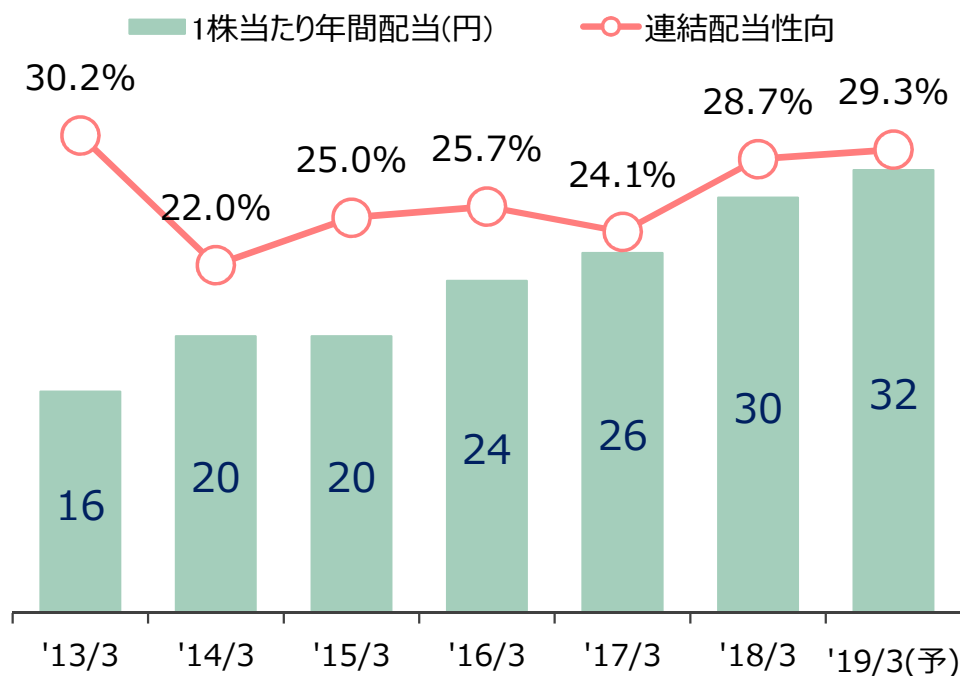


BF-2

基本方針

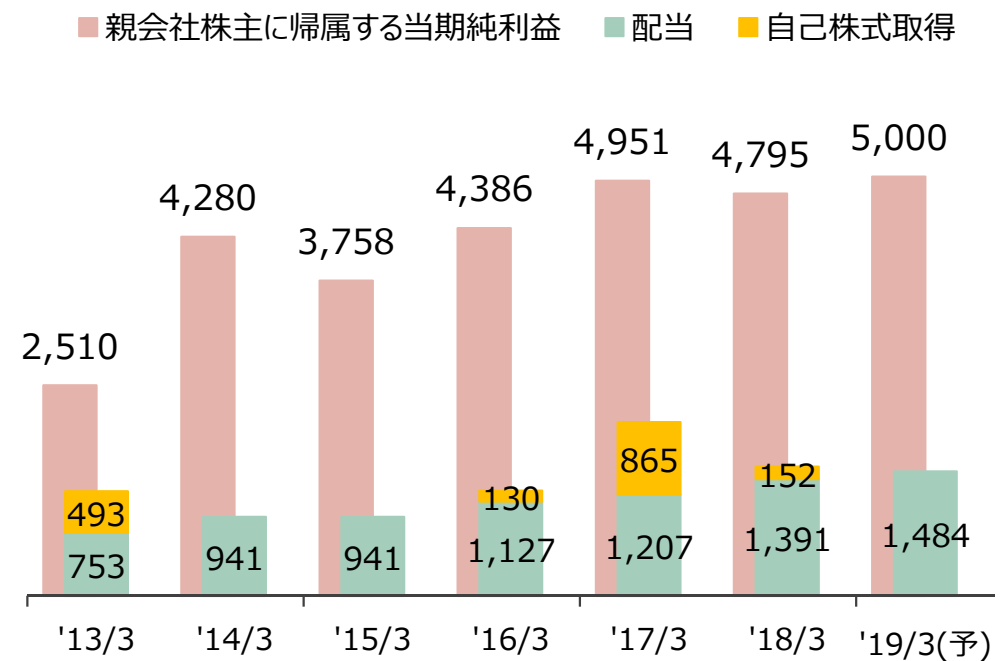
収益および財務状況を配慮しつつ、当面の連結配当性向は30%を目処に安定した利益配当を行うことを目標とし、利益還元の充実に努める。

1株当たり年間配当・連結配当性向の推移



株主総還元の推移

(単位：百万円)



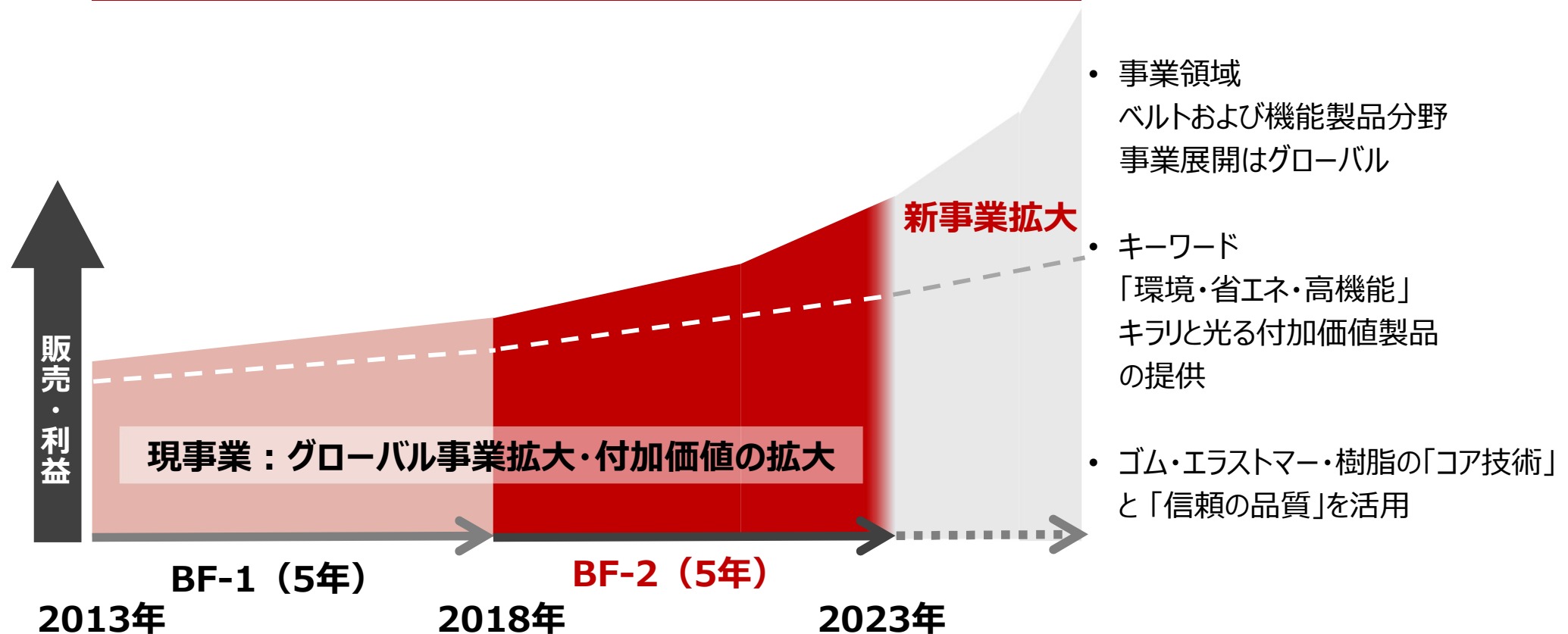
※2016年10月1日付にて普通株式2株につき1株の割合にて株式併合を実施しており、1株当たりの年間配当はこの影響を補正した数値を記載しています。

IV. 中長期経営計画

“Breakthroughs for the future”2ndステージ

中長期経営計画“Breakthroughs for the future” 『未来への躍進』

グローバルで『際立つ』サプライヤー



目指す姿：グローバルで『際立つ』サプライヤー

新事業と現事業の両輪で持続的に成長

指針 1

新事業の 創出

新事業の創出活動に優先的に
経営資源を配分し、
事業ポートフォリオの転換を図る。

指針 2

コア事業の 拡大

新高付加価値製品の提供と
お客様の利便性向上により、狙いとする
重点市場で市場地位トップを獲得する。

指針 3

ものづくりの深化 と進化

コア事業をグローバルに成長させ、かつ、
収益力を向上させるための
ものづくりの技術と体制を進化させる。

指針4 個人と組織の働き方改革

働く環境と制度の整備、人材の育成と意識改革を通じて、自律的で創造的な働き方を推進する。

BANDO TECHNO FAIR 2018

Opening new business fields with elastomers. Heading into where the future lies.

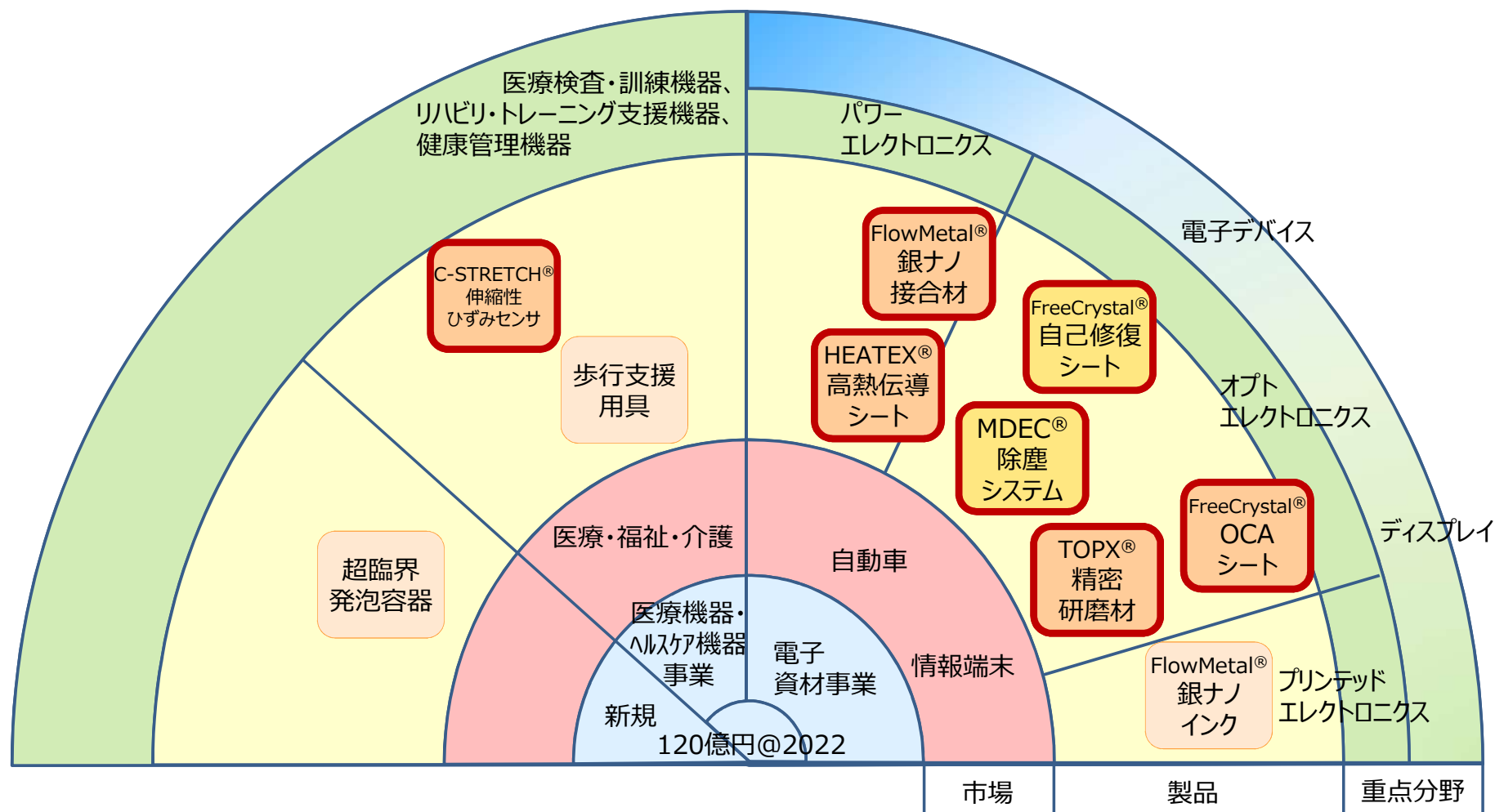


- 大阪、東京の2か所で開催(2018年9月)
- これからのバンドーを担う新事業や未来につながる技術を展示

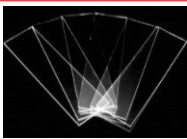


指針 1. 新事業の創出 ①狙う市場・重点分野・主要製品

- 車載の用途拡大に伴いクリティカルな要求が増大する**ディスプレイ分野**
- **パワーエレクトロニクス分野**で要求されるサーマルマネジメント技術の革新
- 成長性が魅力の**医療・福祉・介護市場**



指針1. 新事業の創出 ②注力製品の状況

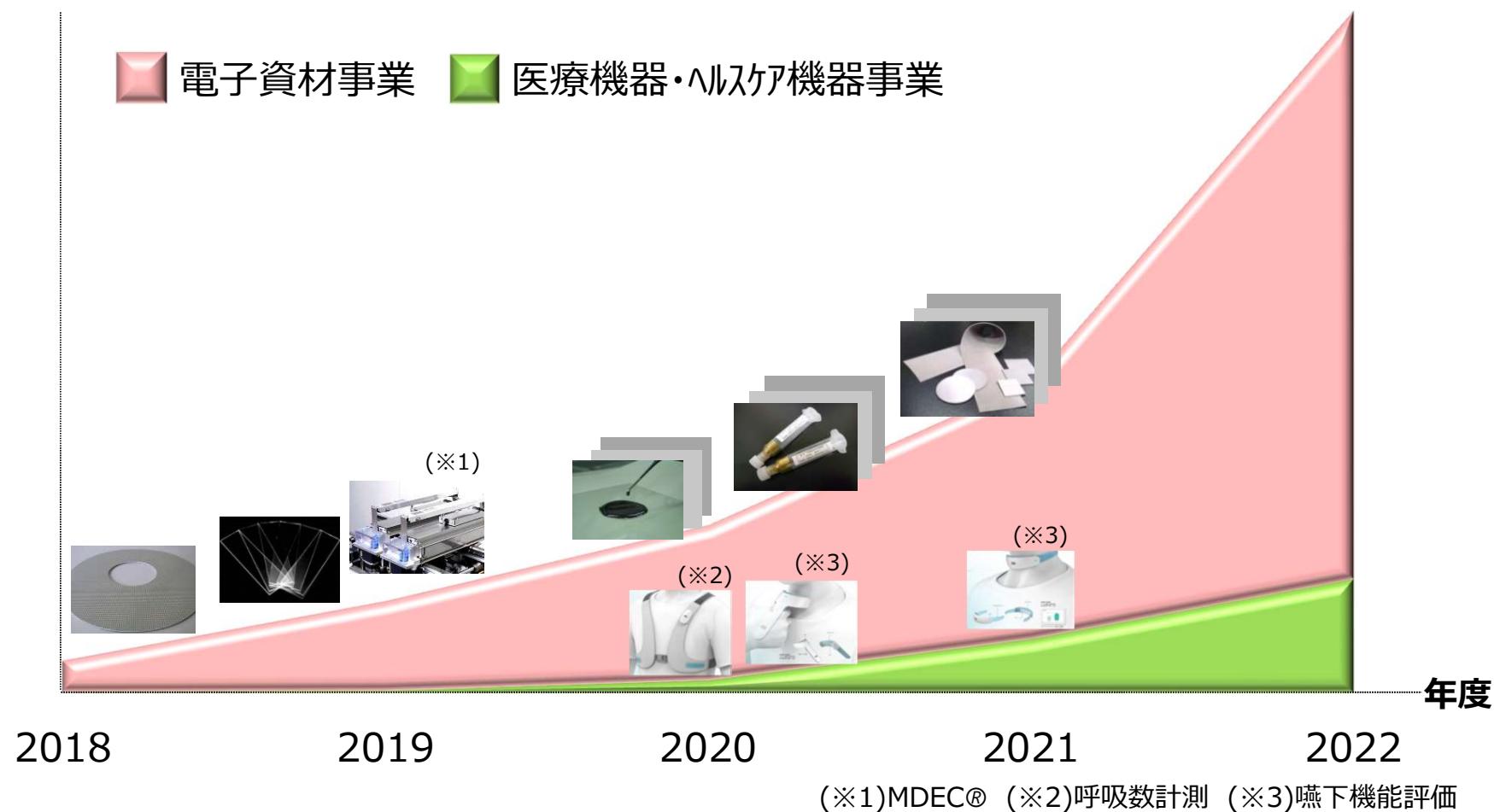
ターゲット	製品	特徴	使用例	状況
プリント エレクトロニクス	金属ナノ粒子インク 「FlowMetal®」 	・ 印刷エレクトロニクス市場での活用		量産販売2019年1月開始見込み
オプト エレクトロニクス	光学用透明粘着剤 「FreeCrystal®」 	・ ディスプレイの視認性向上、優れた加工性		量産販売中
	精密研磨材 「TOPX®」 	・ ガラス基板ラップ工程での優れた研削性		量産販売中
パワー エレクトロニクス	高熱伝導放熱シート 「HEATEX®」 	・ 機器設計のハードルとなる熱問題の解決		量産販売中
	金属ナノ粒子接合材 「FlowMetal®」 	・ 高温動作するパワー半導体や光半導体の接合		量産販売中
医療機器 ヘルスケア機器	伸縮性ひずみセンサ 「C-STRETCH®」 	・ 生体情報センシング機器、システムの提供		量産販売中

 : 電子資材事業

指針1. 新事業の創出 ③事業拡大計画

- 電子資材事業と医療機器・ヘルスケア機器事業の2本柱での事業拡大
- 新製品開発を軸にアライアンス・M & Aの活用模索

売上高



指針 2. コア事業の拡大

2018年5月 ベトナム新工場稼働開始



- 現地におけるスクーター用変速ベルトの需要増、農業機械・産業機械の市場成長等に伴う需要拡大への対応
- 旧工場を移転・拡張、今後のライン拡大にも対応可能



指針 2. コア事業の拡大

高付加価値製品の拡販

精密ベルト（監視カメラ用途）

- 成長する世界市場への対応：
 - 業界トップメーカーへのスペックイン

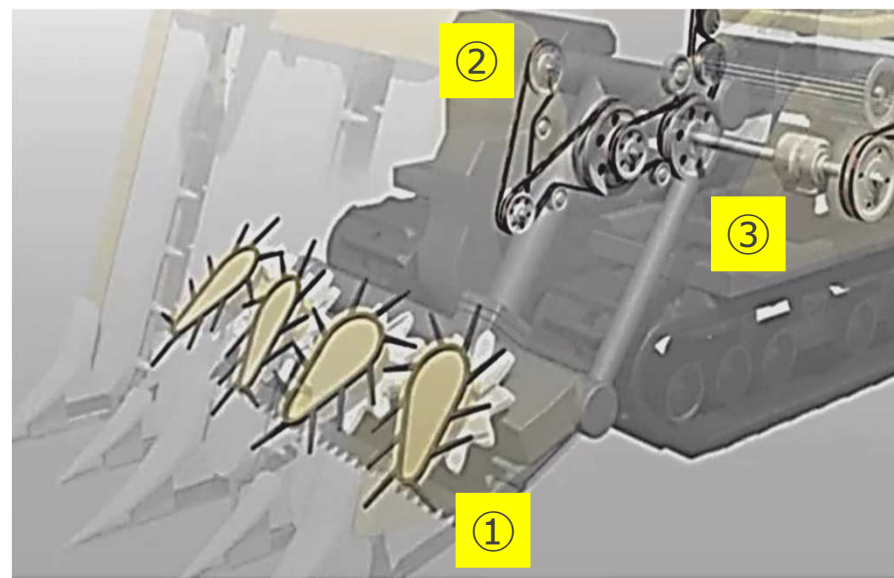


①シンクロベルト



産業機械用ベルト（農業機械用途）

- 海外OEM市場への対応：
 - 中国ローカルメーカーにスペックイン・拡販



①段付Vベルト



②コグベルト

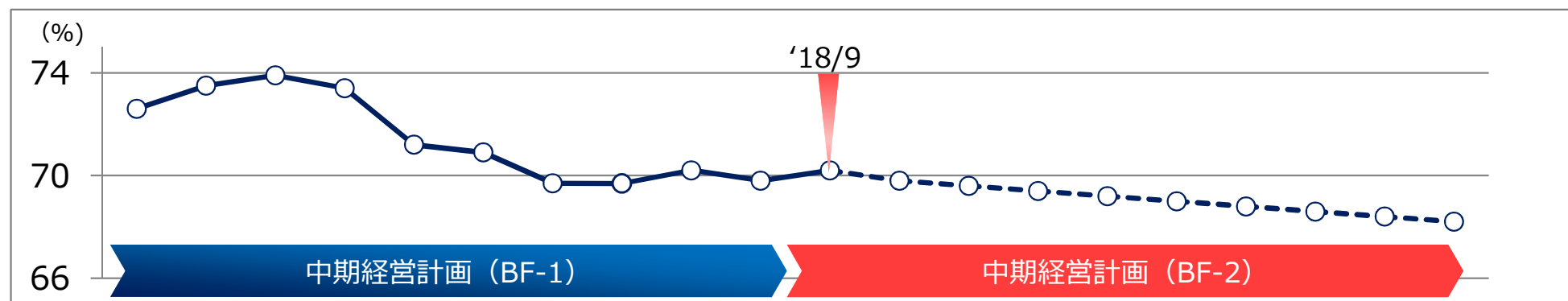


③Vベルト



指針 3. ものづくりの深化と進化

連結売上原価率70%以下の定着



■現在の状況・今後の取組み

主要伝動ベルトの革新製法開発

- ・ 前工程の生産一新。生産試作実施後、工程設計の変更に着手。
- ・ 改良工程による生産試作後、2019年の量産納入を目指す。

自動化ラインの構築

- ・ 生産ラインを一新し、後工程の自動化。量産試作を開始（国内1ライン）。
- ・ 顧客承認の獲得。順次納入開始後、海外拠点の設備増強に応じて横展開。

需要地生産を基本とした最適生産分担

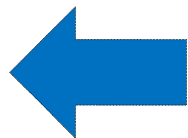
- ・ ベトナムでの一貫生産体制の一部稼働

指針 4 . 個人と組織の働き方改革

一人ひとりが能力を最大限発揮し、生産性の高い組織を築く

■ 働き方改革部の新設とその役割

全社の活動



業務プロセスの改善・支援

IT活用による業務効率向上
の提案・指導

生産性向上とWLBへの
意識改革

働き方改革部



働き方改革ディスカッション風景



IT(タブレット)を利用した点検



工場食堂のリニューアル

■ 業務改善（廃止する・纏める・変える）への取組み

⇒2018年4~9月：業務のスリム化を通して効果が発現

“Breakthroughs for the future”

『未来への躍進』



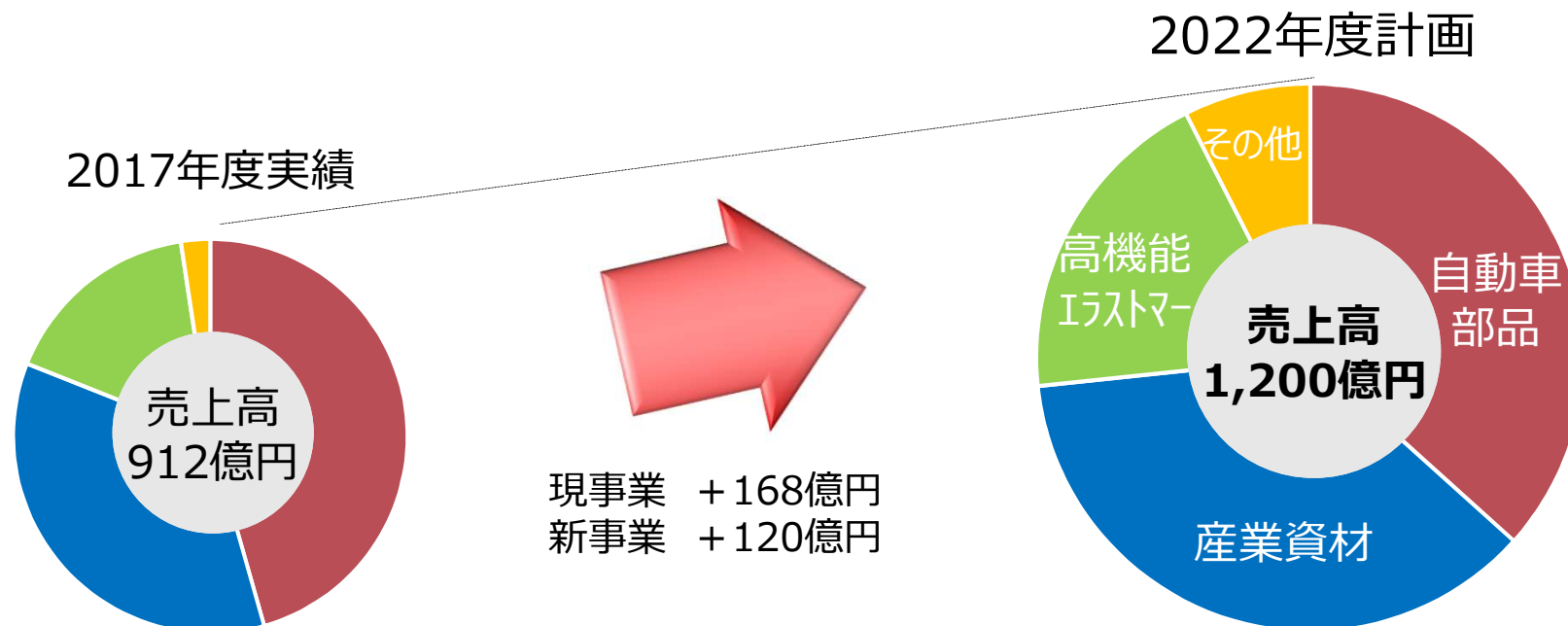
V. 参考資料

BF-2の定量目標

新事業と現事業の両輪で持続的に成長

2022年度定量目標

売上高	営業利益	ROE	新事業・新製品比率
1,200億円	120億円	12.0%	30%以上 (うち、新事業10%以上)



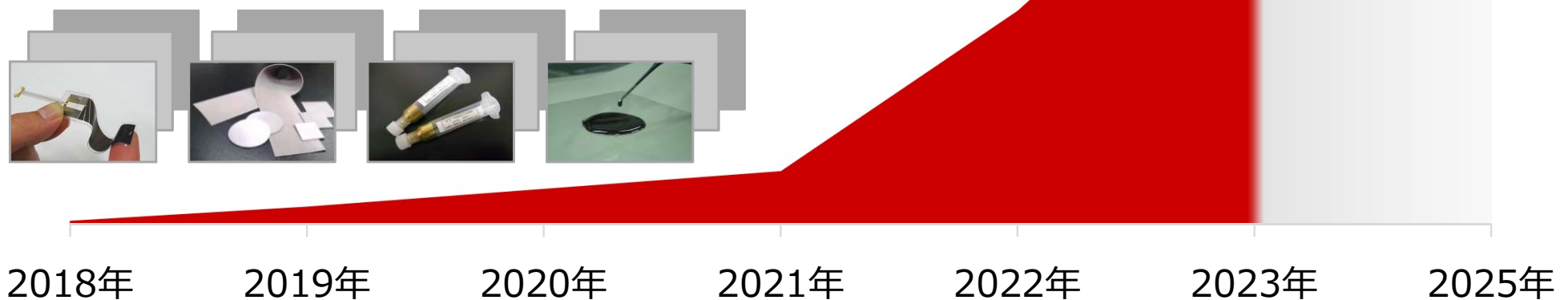
指針 1. 新事業の創出 有望製品・事業化のスピード

□ BF-1開発製品群の市場浸透

- 海外顧客等の横展開への取組み
- 品質設計の完了、生産・製造技術の改良確立
- 新コンセプト改良品の製品化

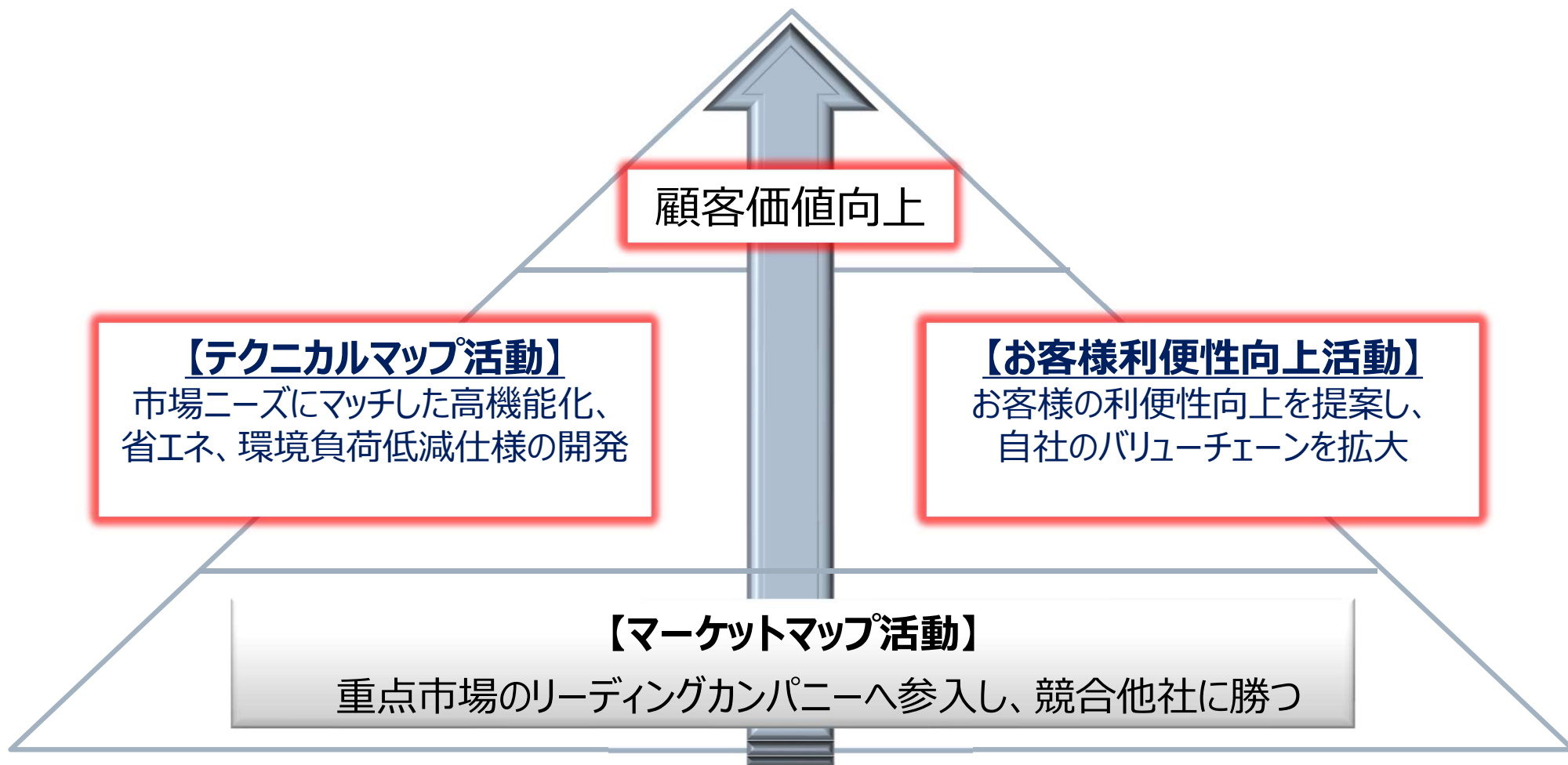
□ 継続的な新製品ネタの探索

- オープンイノベーションの活用・M&A



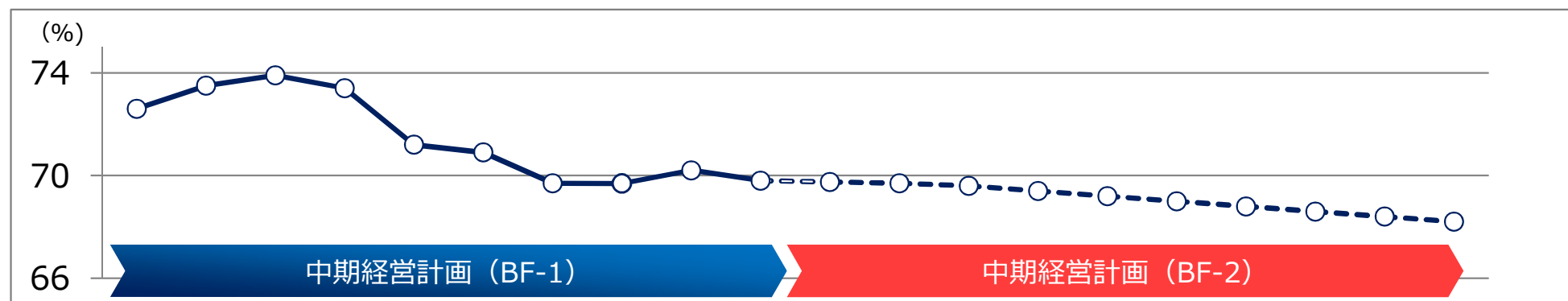
指針2. コア事業の拡大

『**重点業種**×**地域**』で市場地位トップを獲得



指針 3. ものづくりの深化と進化

連結売上原価率70%以下の定着



革新製法の開発

- 主要伝動ベルトの革新製法開発、自動化ラインの構築
- 海外製造拠点への新製法横展開

IoTとAIの推進

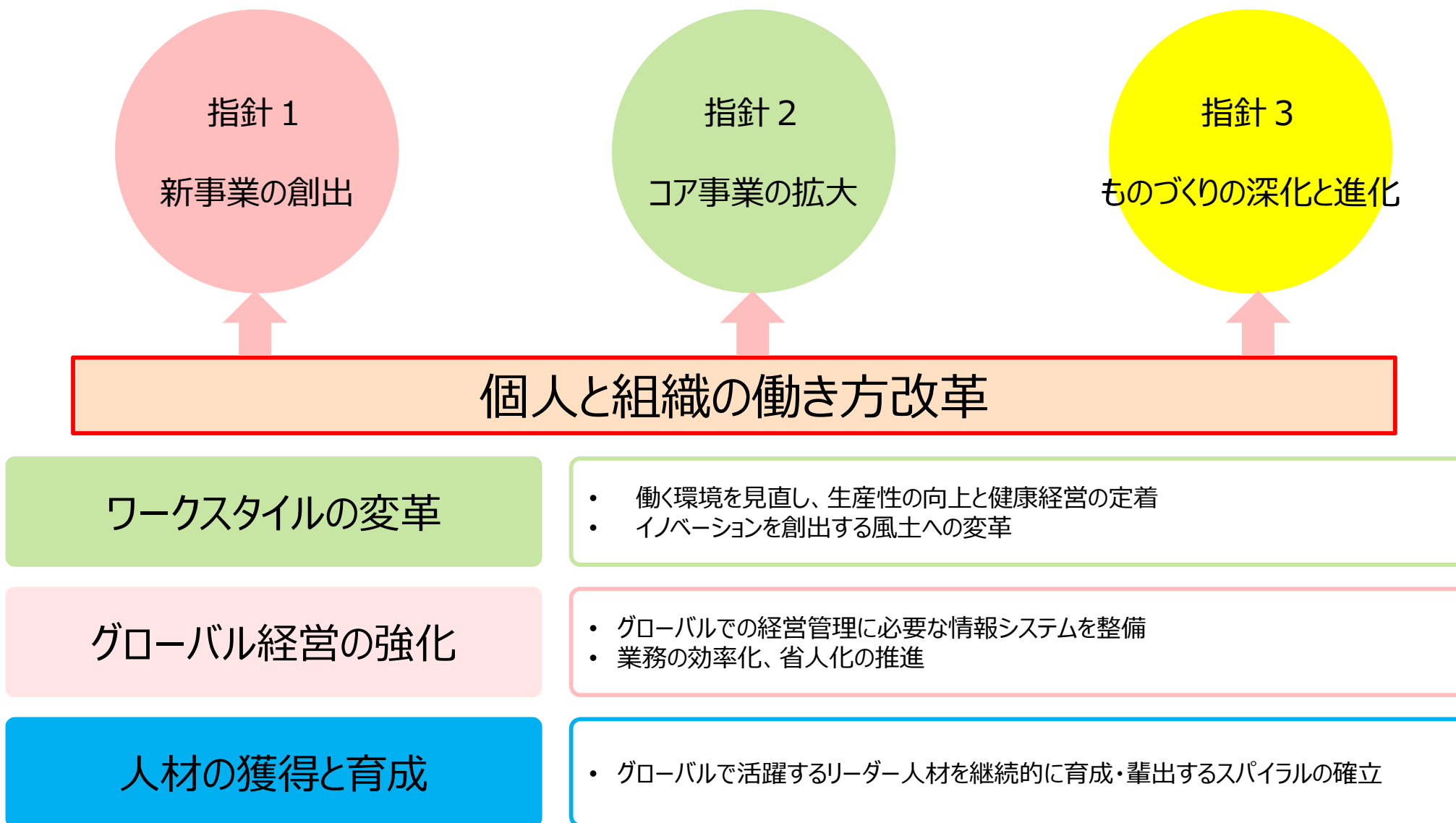
- 工場のIoT化による工数削減
- AI(ロボット)の活用

グローバル全体最適を 目指した製造原価低減活動

- A+B+Cのコストダウン
- 需要地生産を基本とした最適生産分担
- 製品/材料品種の統廃合
- 材料費低減
- グローバル物流の最適化

指針 4 . 個人と組織の働き方改革

持続的な成長に向けた経営基盤の強化で販管費比率20%以下の実現



本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があります。ことにご注意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。